

第 3 次小田原市環境基本計画（令和 4 年 7 月策定）

令和 8 年度（令和 7 年度実績） 年次報告書（案）

令和 9 年（2027 年） 1 月作成

□ 取組の柱に関する令和 7 年度実績（進捗評価）

①取組の柱（様式 1－1）

1-1	環境資源の魅力発信	1
1-2	先導的事業の推進	2
2-1	環境学習・環境活動の推進	4
3-1	地球温暖化対策の推進	6
3-2	エネルギーの地域自給の推進	8
4-1	ごみの減量化・資源化の推進	10
4-2	ごみの適正処理	12
5-1	生態系の維持保全	13
5-2	森里川海の保全・活用（森）	14
5-2	森里川海の保全・活用（里）	15
5-2	森里川海の保全・活用（川）	16
5-2	森里川海の保全・活用（海）	18
6-1	快適な街の維持保全	20
6-2	美化の推進と衛生環境の保持	21
6-3	公害対策	23

②各事業に関する報道（様式 1－2） 24

③その他（様式 1－3）

7-1	庁内連携による環境基本計画の推進	25
-----	------------------	----

□ 環境審議会における意見（様式 3） 26

□ 参考資料 1 成果指標（様式 2－1） 27

□ 参考資料 2 事務事業評価一覧（未搭載） 29

はじめに

第3次小田原市環境基本計画は、小田原市美しく住み良い環境づくり基本条例第2条に定められた環境政策の理念の実現に向け、同条例第7条に基づき令和4年7月に策定したものです。

この年次報告書は、計画の着実な推進を図るため、毎年取組の進行管理・評価を行うことを目的として作成したものです。

参考資料として、計画最終年度に実施する最終評価に用いる成果指標の令和7年度実績、市の総合計画に記載された事業の事務事業評価一覧を合わせて掲載しています。

進行管理・評価方法 (第3次小田原市環境基本計画の進行管理・評価実施要領)

第3次小田原市環境基本計画の進行管理・評価は、『第3次小田原市環境基本計画の進行管理・評価実施要領』に基づいて実施します。

計画で定めた12の取組の柱について毎年度評価を行う「進捗評価」と、望ましい環境像を実現するために定めた6つの施策について、計画の最終年度に指標の達成状況等の評価を行う「最終評価」を実施します。

令和8年度年次報告書につきましては、令和7年度の実績による「進捗評価」を実施しています。

○ 進捗評価 <毎年度実施> …進捗評価シート(様式1-1～3)

12の取組の柱ごとの進捗状況(アウトプット)の作成

第3次小田原市環境基本計画に定めた事項に基づき、「①取組の柱」(様式1-1)、「②各事業に関する報道」(様式1-2)、「③その他」(様式1-3)の令和7年度の実績による評価を実施しています。

○ 環境審議会における意見(様式3)

進捗評価及び中間評価に対し環境審議会からいただいたご意見です。これを踏まえ、翌年度以降の取組への反映、また計画の見直しに反映していきます。

【参考資料】

・成果指標(様式2-1)

望ましい環境像を実現するために定めた6つの施策ごとの、成果指標の令和7年度達成状況です。

・事務事業評価一覧

第7次小田原市総合計画令和7年度実行計画に係る全事業の指標達成状況の振り返り・評価をまとめたものです。

進捗評価シートの見方

(補足)

(例)

施策2 多様な主体の育成・活躍の推進		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
2-1 環境学習・環境活動の推進						
市民の環境意識の向上を目指した環境学習などの取組をさまざまな機会を捉えて推進するとともに、小田原の豊かな自然環境の魅力を広く伝え、森里川海を守り育てていくための体制づくりを進めます。						
① 詳細指標						
環境学習実施件数(件)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
8件	20件	12件	23件	20件	18件	83%
主な取組 ○重点的 な取組	○市民による環境学習 ・活動推進 ・環境団体等への活動支援 ・情報提供や共有 ・森林環境教育・木育					
② 定性的・定量的評価	・『夏休み子ども環境教室』、『おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原』を開催した。 ・担い手育成を目的とした「おだわら市民学校」専門課程と連携し、おだわら環境志民ネットワーク会員が講師を務め、新たな担い手の確保につなげた。 ・イベント運営にあたっては、市内外での環境活動を推進している団体・個人を中心に講師を依頼、また県施設との連携も図った。 ・わたしの木づかい事業において、市内小学校児童を対象に座学、間伐体験、地域産木材を使った箸づくりまでの森林整備から木材利用の流れを体験することによって、「人々の暮らしに役立つ森林の働き」、「森林の手入れの必要性」、「木を使うことの意義」等、森林・木材に関する理解を深めた。 ・広報紙「広報おだわら」において、脱炭素施策について、特集記事を掲載し、周知を図った。 ・森のおくりもの事業において、誕生祝品として新生児に地域産木材で製作した玩具を贈呈し、感性豊かな乳幼児期から木に親しむ環境を醸成した。 ※詳細指標 夏休み子ども環境教室(14回)、おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原(ワークショップ6件)の合計講座数 参考:「おだわらグリーンマルシェ」 環境志民ネットワーク会員の事業PRの発信の場として、開催される定例事業。 本年度に立ち上がった、独自認定ブランド商品のPRを目的として開催、環境フェスはワークショップブースとして共催参					
③ 進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない						
④ 計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について						
状況を示す写真や資料等						
①詳細指標 取組の柱ごとに設定した詳細指標、実績値及び進捗割合(0~100%)を示しています。 進捗割合:基準値から目標値に対する、令和7年度実績値の割合 ※詳細指標が累計の場合は、累計数で算出 【 進捗割合の計算式 】 (i)目標値が基準値よりも増または減の場合 「(実績値-基準値) / (目標値-基準値)」 ※目標値を超える場合...100% 基準値を下回る場合... 0% (ii)目標値が基準値維持の場合 「実績値が基準値を超えて入れば100%」 実績値が基準値を満たない場合は 「実績値/目標値」 ②定性的・定量的評価 評価対象年度に実施した事業の定性的・定量的評価の内容を記載しています。 ③進捗状況 取組の柱について、詳細指標(進捗割合含む)及び定性的・定量的評価から、計画どおりに進捗しているかないかを総合的に判断しています。 ④計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について 令和7年度に計画見直しを行い、令和8年4月に「第3次小田原市環境基本計画改訂版」を策定したため、計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について参考として記載しています。						

空白

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策1 地域循環共生圏の構築	評価対象年度	令和7年度(2025年度)
----------------	--------	---------------

1-1 環境資源の魅力発信

森里川海の恵みによる地域資源(地場産品、体験、人材、自然的景観等)を生かしたコンテンツ創りを進めることとともに、市内外へ効果的な発信をしていきます。

詳細指標

森里川海ブランドの認定数(件)《累計》

基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
-	10件	0件	0件 《0件》	10件 《10件》	6件 《16件》	100%

主な取組 ○重点的 な取組	・観光、農業、林業、漁業、広報等との連携 ・地域資源を生かしたコンテンツ創出 ○森里川海ブランドの確立
---------------------	---

定性的・ 定量的 評価	・おだわら環境志民ネットワーク会員が提供する商品等の中から「Green Selection 第2弾」として6種類の認定を行った。 ・「Green Selection」として認定された商品を同ネットワーク主催イベント「おだわらグリーンマルシェ」にて販売を実施し、PR及び販路拡大を図った。 ・市主催イベント(オダワラオープンマルシェ、きまつり、ローカルフードマルシェ)において、同ネットワーク会員の商品販売やワークショップを実施した。 ・「小田原ジビエフェア実行委員会」を設置し、有害鳥獣被害や有害鳥獣の有効活用についての啓発をメインテーマとする「小田原ジビエフェア」を開催し、小田原ジビエの魅力アピールした。 【定量的評価】 ・おだわらグリーンマルシェ:1回実施《R6実績 1回実施》 ・ローカルフードマルシェ:6団体参加(2回実施)《R6実績 5団体参加》 ・きまつり:3団体参加《R6実績 10団体参加》 ・小田原ジビエフェア:1回実施《R6実績 1回実施》
-------------------	---

進捗状況 事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針

■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	各イベント出店等を通し、地域資源の魅力発信に取り組んでいるが、今後は、各イベント出店の目的等を明確化し、これに併せて出店内容を検討し効果的な周知につなげていく必要がある。また、地域循環共生圏の構築に向け、地域資源を活用した新たなコンテンツ創りについても検討していく。
-------------------------------	---

計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について	「森里川海ブランドの認定数」について、計画最終年度における目標値を設定した。新たに、より経済との結びつきを図ることができる「森里川海ブランド認定品の出店回数」を詳細指標として定め、計画最終年度における目標値を設定した。
------------------------	---

状況を示す写真や資料等

【森里川海ブランド】Green Selection

小田原市の自然環境に貢献しているモノやサービスを効果的にPRすることで、地域資源から経済的価値を作り出す取組。地域の豊かな自然環境を守る取組の中で作り出した商品などから、第2弾として6商品を認定した。(第1弾10種類 (計16種類))



小田原天然セーム革
「DEER LOOP」

有限会社 ハンズ・アーツ
生葉藍染麦ブレッド帽子

【おだわらグリーンマルシェ】

令和8年3月28日開催

Green Selectionの販売や、会員によるワークショップの実施を通し環境保全活動について周知を行った。(10団体参加)
小田原ジビエフェアと同日開催を行った。

【小田原ジビエフェア】

令和8年3月28日開催

有害鳥獣被害や、有害鳥獣の有効活用についての知識や理解を深めるため開催。串焼き等の飲食販売、ワークショップ、物販、展示等。
おだわらグリーンマルシェと同日開催。



□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策1 地域循環共生圏の構築		評価対象年度		令和7年度(2025年度)				
1ー2 先導的事業の推進								
荒廃竹林や獣害などの環境課題の解決に向け、民主導の公民連携のもと、市民のみならず首都圏等から多くの方に関わっていただき、課題だったものが経済性を有する地域資源に転換し、環境保全活動の促進へとつながる循環の仕組みの構築を目指します。また、環境の各分野や他分野など、分野横断的な取組をすることで、地域循環共生圏の構築に向けたモデル事業を実施していきます。								
詳細指標								
地域循環共生圏の構築に向けた取組数(件)《累計》								
基準値 (令和2年度) (2020年度)		<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)		実績値		進捗割合		
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)			
－		5件		1件	2件 《3件》	3件 《6件》	8件 《14件》	100%
主な取組 ○重点的な取組		・地域循環共生圏の構築に向けた検討や事業実施 ・環境課題への対応(荒廃竹林解消、獣害対策) ○環境保全活動に係るプラットフォーム機能の強化						
定性的・定量的評価		・「おだわら環境志民ネットワーク」における会員連携に向けた機会の創出に係る取組に対する支援等を行った(イベント等の出展・開催等)。効果的な連携につながるよう情報交換会の見直しについて検討した。 ・同組織の活性化を目的としたワーキングチームによる打合せを行い、会員交流イベントや自主イベントの開催につなげ、会員連携を図った。 ・会員連携による新たな取組等として、竹林整備を通じた地域交流の取組、農業を通じた地域交流兼無煙炭化器を用いた環境保全活動など先進的な自然環境保全に資する取組につなげた。(環境活動支援事業) ・「環境と資源の好循環」の実現に向けた取組として、「おだわら森里川海ブランド事業(GreenSelection)」を開始した。 【定量的評価】 ・会員数:97(団体:39 企業:15 個人:43) ※令和7年度末現在 ※前年度比 3増 ・おだわら環境志民ネットワーク環境活動支援事業:8事業、交付金総額 695,478円 《R6実績 9事業、交付金総額 696,000円》						
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針						
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		モデル事業の構築に向け、おだわら環境志民ネットワークの事業体系見直しを踏まえた各活動を促進する中で、会員活動を活性化させるとともに森里川海などの活動ジャンルごとの連携を強化し活動の促進を図ることで、環境課題の解決に向け取り組んでいく。						
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「地域循環共生圏の構築に向けた取組数」について、計画最終年度における目標値を設定した。						

【おだわら環境志民ネットワーク】

＜そだてる事業(次世代の人材育成)＞

市主催の各イベントへ、おだわら環境志民ネットワークとしての出展を通し自然資源の魅力や豊かさの発信を行った。



ローカルフードマルシェの様子
(9/27、28、11/15、11/16)



きまつりの様子(9/27)



組織全体の活性化を目的に、会員交流イベントとして『シェアキッチン』を開催し、各会員の活動から生まれたものを持ち合い、情報交換を行った。



＜うみだす事業(環境と経済の好循環)＞

【森里川海ブランド】Green Selection
小田原市の自然環境に貢献しているモノやサービスを効果的にPRすることで、地域資源から経済的価値を作り出す取組。



小田原天然セーム革
「DEER LOOP」



生葉藍染麦
ブレード帽子

【環境活動支援事業】

多様な主体の連携により自然環境の保全に資する取組、またそれらを担う人材育成や活動資金の確保に資する取組が促進されるよう、新たな挑戦や価値創造に繋がる事業に対し支援を行う事業。



(鹿レザーアップサイクル事業)



(循環型農コミュニティの立ち上げ及び
無煙炭化機を用いた炭素固定による環境保全に係る事業)

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策2 多様な主体の育成・活躍の推進		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
2ー1 環境学習・環境活動の推進						
市民の環境意識の向上を目指した環境学習などの取組をさまざまな機会を捉えて推進するとともに、小田原の豊かな自然環境の魅力を広く伝え、森里川海を守り育てていくための体制づくりを進めます。						
詳細指標						
環境学習実施件数(件)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
8件	20件	12件	23件	20件	18件	83%
主な取組 ○重点的 な取組	○市民による環境学習・活動推進 ・環境団体等への活動支援 ・情報提供や共有 ・森林環境教育・木育					
定性的・ 定量的 評価	・市内在住・在学の小学生を対象に、単発講座として『夏休み子ども環境教室』を開催。脱炭素、海洋プラスチック、食品ロス等幅広いテーマを通して身の回りの自然環境への意識を高め、実践的な行動につなげるための普及啓発を図った。 ・担い手育成を目的とした「おだわら市民学校」の専門課程について、おだわら環境志民ネットワーク会員と連携し担い手に直結しやすい年代を対象に開催することで、市内で活動する環境保全団体の取組を広く周知するとともに、環境保全に係る新たな担い手の確保につなげた。(通年講座:年15回実施) ・イベント運営にあたっては、市内外での環境活動推を推進している団体・個人・企業を中心に講師を依頼、また県施設との連携も図った。 ・環境に係る普及啓発を行っている庁内各部署の取組を集計し、類似事業の整理や各部署の役割の棲み分けを行うなど、今後の取組を検討する上での基礎資料とした。 【定量的評価】 ・夏休みこども環境教室 10回、148人参加 《R6実績:14回、263人参加》 ・おだわら市民学校「自然を守り育てる」:15講座、13人参加 《R6実績:15講座、13人》 ・出前講座及びごみに関する授業:3回／5回、計412人参加 《R6実績 9回／6回、計720人参加》 ・わたしの木づかい事業実施校・参加児童数 17校・900人《R6実績 20校、1,096人》 ・森のおくりもの事業地域産木材玩具配布数 850個(人)《R6実績 894個》					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
□計画どおり進捗している ■計画どおり進捗していない		対象年齢と普及内容が効果的に担い手につながっているかどうかという課題を踏まえ、今後は、普及内容や対象年齢の見直し・拡充を行い担い手の創出につなげるため、庁内各部署で開催している類似事業とも連携を図りながら、効果的に普及啓発を行っていく。 また、担い手の創出にあたっては、環境保全団体などへのヒアリングを行い、担い手が不足している活動を把握した上で、団体とも連携しながら担い手に直結するようなアプローチを全世代対象に行っていく。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「環境学習実施件数」について、計画最終年度における目標値を設定した。				

【夏休み子ども環境教室】7/25～8/25開催



7/29 余った食材でマフィン作り



8/19 県西地域2市8町共催【南足柄会場】
海岸の砂から海洋プラスチックごみを探そう！



【おだわら市民学校】
環境事業センター施設見学



【おだわら市民学校】
枝打ち間伐体験

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

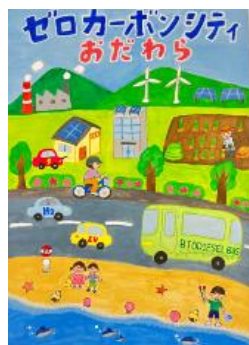
様式1-1 取組の柱

施策3 脱炭素		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
3－1 地球温暖化対策の推進						
脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化の緩和に資する設備導入支援や再生可能エネルギー電力利用の普及、省エネの促進、ごみの排出量削減などを推進するとともに、暮らしの中に脱炭素行動を取り入れられるよう促していくことで、環境に配慮したライフスタイルへの転換を図ります。また、市役所自らが率先して、脱炭素化の取組を進めます。あわせて、洪水や土砂災害、熱中症への対応や農林水産業への影響など、地球温暖化への適応に関する情報把握や普及啓発を図ります。						
詳細指標						
電気自動車普及台数(台)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
291台	1,000台	434台	611台	718台	未確定 ※令和9年1月頃確定	— 確定後に算出
主な取組 ○重点的 な取組	・小田原市地球温暖化対策推進計画や小田原市エネルギー計画の策定及び推進 ・地球温暖化対策に資する設備導入に対する支援 ○市民や事業者等における地球温暖化対策の促進 ・環境配慮契約の推進・普及					
	・令和4年度に策定した気候変動対策推進計画について、中間評価の結果や、社会情勢の変化などを踏まえ見直しを行った。 ・民生家庭部門における温室効果ガスを削減するため、「地球温暖化対策推進事業費補助金」の交付を行った。 ・市、市民、事業者の協働による任意団体「おだわらゼロカーボン推進会議」の運営を行い、小中学生を対象とした絵画・ポスターコンクールやSNSで脱炭素に関する普及啓発を行う「おだゼロアンバサダー」の一般公募のほか、環境イベントを実施した。 ・おだわらゼロカーボン推進会議から「おだゼロRE100事業」を引き継ぎ、再生可能エネルギーを使用する事業所を登録する「再エネ電力使用事業所登録制度(ORE)」を開始した。《新規事業》 ・『夏休み子ども環境教室』にて、環境学習講座を開催した。 【定量的評価】 ・地球温暖化対策推進事業費補助金 蓄電池:14件、EV:7件、燃料電池:3件、ZEH:5件、V2H:3件 《R6実績 蓄電池:18件、EV:12件、燃料電池:3件、ZEH:8件、V2H:2件》 ・おだわらゼロカーボン推進会議:75会員(事業者:48会員、個人:22会員、学生:1会員、賛助:4会員) 《R6実績 74会員》 ・おだゼロ絵画・ポスターコンクール:応募総数200作品 《R6実績 255作品》 ・おだゼロアンバサダー事業:任命数7名 ・ORE:登録事業所数:51事業所(達成事業所25事業所、宣誓事業所26事業所) 《R6実績 27事業所》					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
□計画どおり進捗している ■計画どおり進捗していない		電気自動車の普及台数は目標に及んでおらず、既存の補助制度のほかEV宿場町等その他の事業を最大限活用し、普及拡大を図る必要がある。 また既存の普及啓発事業については応募者数・参加者数が減少傾向にあることから、啓発したい内容やターゲット層を明確にした上で、どのように効果の測定を行うかまでを視野に入れ、確度の高い事業を実施していく必要がある。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「電気自動車普及台数」について、計画最終年度における目標値を設定した。 市域における地球温暖化対策の進捗状況を、より包括的かつ端的に示す指標とするため、家庭のCO2排出量削減に直結する「長期優良住宅等認定数」と、事業所のCO2排出量削減に直結する「小田原市再エネ電力使用事業所登録制度における達成事業所数」を新たな詳細指標として追加し、計画最終年度における目標値を設定した。				

【おだゼロ絵画・ポスターコンクール】



おだゼロ最優秀賞 受賞作品
中学生の部



おだゼロ最優秀賞 受賞作品
小学生の部



表彰式の様子

【再エネ電力使用事業所登録制度(ORE)】



事業チラシ



達成事業所
店頭掲出用ステッカー

【おだゼロアンバサダー事業】



アンバサダーによる実際の投稿

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策3 脱炭素		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
3-2 エネルギーの地域自給の推進						
エネルギーの地域自給に向けて、国・県の施策とも連携しながら再生可能エネルギーの利用を促進するとともに、地域のエネルギーを地域で効果的に活用する取組を公民連携により推進します。また、公共施設の新設や大規模改修時には、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー化などの環境に配慮した整備を進めます。						
詳細指標						
市内の再生可能エネルギー導入量(kW)《累計》						
基準値 (令和元年度) (2019年度)	＜参考＞目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
34,000kW	67,000kW	2,000kW 《39,000kW》	3,000kW 《42,000kW》	3,000kW 《45,000kW》	3,000kW 《48,000kW》	39%
主な取組 ○重点的 な取組	○再生可能エネルギー設備導入に対する支援 ・地域マイクログリッドを通じた先進技術の実装 ・産業用蓄電池を活用したエネルギーマネジメント事業の実施 ・公共施設への環境に配慮した整備の検討 ・「ゼロカーボン・デジタルタウン」の創造					
	・国の交付金を活用して、再生可能エネルギー導入・省エネ改修に対する補助金の交付及び、公共施設への再生可能エネルギー導入・省エネ改修を引き続き行った。 ・「脱炭素先行地域づくり事業」の一環である電力地産地消プラットフォームの構築及び運営においては、令和8年4月1日の運営開始に当たり、「電力地産地消プラットフォーム運営開始式典」を開催した。 ・整備を進めていた「総合医療センター」および「たちばなこども園」が令和7年度内に竣工し、50%以上の省エネを達成する「ZEBReady(ゼブレディ)」の認証を取得した。 ・「総合医療センター」および城址公園で、使用電力のすべてを実質的な再生可能エネルギー由来電力(再エネ電力)に切り換え、電力使用に伴う二酸化炭素の排出量を実質ゼロとした。					
定性的・ 定量的 評価	【定量的評価】 ・重点対策加速化事業費補助金:太陽光73件(705.4kW)、蓄電池53件 ※前年度繰越分含む 《R6実績 太陽光45件(264.7kW)、蓄電池24件》 ・脱炭素先行地域づくり事業費補助金:太陽光7件(698.7kW)、《R6実績 太陽光8件(364kW)》 ・公共施設の再エネ導入・省エネ化:太陽光2施設(120.5kW)、照明5施設、空調4施設、給湯・換気2施設、 エネルギーマネジメント1施設、コジェネレーション1施設、EV公用車5台 ※施設重複あり 《R6実績 太陽光1施設(30kW)、照明9施設、空調2施設、EV公用車5台》 ・再エネ電力に切り替えた公共施設:総合医療センター、城址公園					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
□計画どおり進捗している ■計画どおり進捗していない		これまで市内に整備してきた再生可能エネルギー設備と令和8年度より運営が開始する電力地産地消プラットフォームの構築により、エネルギーの地域自給を推進するための土壌が整ってきたものと考えられる。今後はこれらの取組をより多くの市民・事業者認知いただき、また参加いただけるよう理解を求めていく必要がある。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「市内の再生可能エネルギー導入量」について、計画最終年度における目標値を設定した。 現状把握可能な市内の再エネ導入量を精査し、FIT導入量のうち、廃止された設備の容量を除外して詳細指標を再設定するとともに、その旨がわかるよう補足説明を追加した。				



公共施設(消防署南町分署)への高効率空調の設置



民間事業所への太陽光発電設備の設置



電力地産地消プラットフォームの運営開始



竣工した総合医療センター



竣工したたちばなこども園



たちばなこども園が取得した
ZEB Ready 認定証

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策4 資源循環		評価対象年度		令和7年度(2025年度)				
4－1 ごみの減量化・資源化の推進								
省資源・循環型社会の構築を目指し、発生抑制・再使用に重点を置いたごみの減量化を推進するとともに、さらなるごみの分別徹底や分別品目の拡大などを進め資源化を推進します。								
詳細指標								
家庭における1人1日当たり燃せるごみ排出量(g)								
基準値 (令和2年度) (2020年度)		＜参考＞目標値 (令和6年度) (2024年度)		実績値		進捗割合		
				令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
515g		484g		493g	474g	466g	462g	100%
主な取組 ○重点的な取組		○食品ロスの削減 ○プラスチックごみの削減や資源化 ・生ごみの資源化 ・剪定枝の資源化 ・紙布類の分別徹底 ・焼却灰等の適正処理や資源化						
定性的・定量的評価		【定性的評価】 ・食品ロスの削減については、「食品ロス削減推進計画」を策定し、令和12年度を目標年次に令和元年度比で35%削減することとした。 ・食品ロスの削減や生ごみの資源化に向けて、食品ロスの発生抑制や、食品廃棄物を資源として循環させるための取組を推進した。特に意識啓発として、小学生を対象とした夏休み子ども環境教室を実施したほか、新たな取組として「食品ロス削減レシピコンテスト」を実施し、受賞作品を情報誌ゴミダスへ掲載するなど、市民へのPRを図った。 ・また、家庭における生ごみ資源化推進施策である段ボールコンポストの普及啓発として、スーパーマーケット等での店頭実演や勉強会などを開催したほか、令和7年度からの新たな取組として、生ごみを分解消滅させる「キエーロ」の普及啓発に向けた講習会や製作教室を実施した。 ・プラスチックごみの削減や資源化に向けて、令和7年1月27日にアサヒ飲料株式会社ほか2社と「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定」を締結し、温室効果ガスの削減効果が高いペットボトルの水平リサイクルを推進した。また、県西地域2市8町の広域的な枠組みで、県と連携しながら、芸能タレントを起用した公開講座を実施した。 【定量的評価】 ・環境学習教室(『夏休み子ども環境教室』):5回、計46人(保護者含む)(R6実績4回、計70人参加(保護者含む)) ・段ボールコンポストを利用した生ごみ堆肥化事業の実演 10か所、全27回 (R6実績11か所、全27回) ・キエーロを利用した生ごみ減量に関する講座(講習会1回、計5人参加 製作教室 1回、36人参加) ・生ごみ堆肥化事業参加者による情報交換や勉強会 7か所、全10回、108人参加(R6実績 8か所、全13回、162人参加) ・出前講座及びごみに関する授業:3回／5回、計412人参加 (R6実績 9回／6回、計720人参加) ・包括連携協定先との啓発活動(湘南ベルマーレFSC) 出展2回 5ブース (R6実績 出展4回 4ブース)						
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針						
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		目標値に対して計画通りに進捗しているものの、国の目標値や他都市の動向などを勘案すると、更なるごみの減量化・資源化の推進が必要である。 そのため、生ごみの減量化に向けた施策の拡充を図って行くとともに、剪定枝の資源化や製品プラスチックの再商品化に向けた分別回収の導入など、新たな施策の実現を目指していく。						
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「家庭における1人1日当たり燃せるごみ排出量」について、計画最終年度における目標値を設定した。 これまで「資源化率」は取組の柱4-2の指標としていたが、取組の柱4-1への関わりが大きいため移動することとした。						

【夏休み子ども環境教室】
(レスキューバナナマフィンといろいろ野菜のマフィン作り)



【ごみと資源を考える情報誌 ゴミダス(第30号)】
(リチウムイオン電池などの収集開始のお知らせ)



【食品ロス削減レシピコンテスト(受賞作品)】



①残った料理(ラタウイユ)をリメイクした
「とっておきのリメイクキッシュ」

②捨てられがちなブロッコリーの芯を活用した
「ブロッコリーおにぎり」

③てがらしの茶葉を活用した「茶〜ハン」

【生ごみを分解消滅させる「キエーロ」(ミニサイズ)】



□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策4 資源循環		評価対象年度		令和7年度(2025年度)										
4-2 ごみの適正処理														
さらなる循環型社会の形成に向け、高齢化の進展等、社会環境の変化を捉え、市民ニーズに的確に対応した収集運搬業務執行体制の改善を図ります。また、廃棄物処理施設の計画的な修繕と適正な管理運営を行うとともに新たな廃棄物処理施設のあり方について検討します。														
詳細指標														
資源化率(%)														
基準値 (令和2年度) (2020年度)	＜参考＞目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合								
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)									
24.3%	24.9%	24.2%	23.5%	23.2%	22.1%	0%								
主な取組 ○重点的な取組	○ごみ収集・運搬業務執行体制の改善 ・大型ごみの収集受付のデジタル化検討 ・焼却施設の管理運営や修繕、今後のあり方検討 ・リサイクル施設などの管理運営、修繕 ・埋立処分場の管理運営 ・小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会の運営費補助を通じた新たな廃棄物処理施設の検討													
定性的・定量的評価	・ごみ収集運搬体制の効率化を図るため、ごみ集積場所の収集ルートについて、収集車の往復回数や積載量上限などのパラメータの諸条件を代えて設定し、AI解析による複数のシミュレーションを行ったほか、ごみ収集車両運行管理システムの導入に向けた検討を行った。 ・資源ごみ回収拠点については、引き続き、環境事業センター、梅の里センター、尊徳記念館に設置し、資源化を図った。 ・焼却施設及びリサイクル施設などは、定期的な工事や必要な修繕を行い、適切な稼働状態を維持している。 ・小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会では、小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化基本構想を令和8年3月に策定した。 ※詳細指標 資源化率は微減しているが、市民生活の変化に伴い資源ごみの大半を占める紙・布類が減少していることに起因している。 【定量的評価】 ・令和7年度の資源ごみ回収拠点での回収量：ペットボトル957.6kg、かん類698.8kg、びん類2,423.2kg、紙・布類27,480.5kg(※R6年度実績 ペットボトル624.3kg、かん類514.7kg、びん類1,517.6kg、紙・布類18,951.7kg)													
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針												
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		資源化率の向上を図るため、市民や事業者により分別の徹底を周知する必要がある。												
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		本取組の見直し前の指標は、「資源化率」であったが、この指標は取組の柱4-1への関わりが大きいと判断し移動することとした。 廃棄物処理施設の計画的な修繕や適正な管理運営を図ることができる指標として、「焼却施設の排ガスが大気排出基準値以下に維持されている割合」を新たな詳細指標として定め、計画最終年度における目標値を設定した。												
状況を示す写真や資料等														
【資源ごみ回収拠点】 施設の開設時間中、資源ごみ(かん類・びん類、ペットボトル、紙・布類(環境事業センターのみ)) ①環境事業センター ②梅の里センター ③尊徳記念館														
回収結果		【環境事業センターの回収拠点】 												
場所	環境事業センター				梅の里センター		尊徳記念館		合計					
分類	PET	かん類	びん類	紙・布類	PET	かん類	びん類	PET	かん類	びん類	PET	かん類	びん類	紙・布類
令和6年度	299.2	217.1	671.0	19,986.0	117.9	105.6	240.4	219.3	204.4	638.9	624.3	514.7	1,517.6	18,951.7
令和7年度	423.1	308.9	1,115.7	27,616.5	166.0	127.9	349.1	398.7	273.2	1,051.6	957.6	698.8	2,423.2	27,480.5

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策5 自然共生		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
5-1 生態系の維持保全						
生き物たちの豊かな個性とつながりである生物多様性の保全に留意しながら、希少な動植物を守り育てる活動を進めるほか、市民の安全安心な生活のために、民間団体や狩猟者などと連携しながら有害鳥獣の追い払いや捕獲を進めます。						
詳細指標						
農作物の鳥獣被害額(千円)						
基準値 (令和2年度 (2020年度))	<参考>目標値 (令和6年度 (2024年度))	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
13,329千円	12,586千円	2,497千円	634千円	2,371千円	746千円	100%
主な取組 ○重点的 な取組	・自然環境モニタリング調査等の実施 ○ニホンザルやイノシシ、ニホンジカ等の有害鳥獣対策 ・メダカやコアジサシの保護や啓発活動					
定性的・ 定量的 評価	【定性的評価】 ・自然環境モニタリング調査では、以前調査を実施した71地点のうち、4地点(陸域2地点、水域2地点)について、経年変化を確認する秋季と冬季(早春季含む)の調査を実施した。 ・神奈川県猟友会小田原支部等による狩猟免許保有者による有害鳥獣駆除を実施。市民の被害を軽減、防止した。 ・ハクビシン等の有害鳥獣による生活被害軽減のため、捕獲の許可、捕獲檻の貸し出し等を行った。 【定量的評価】 ・捕獲数:イノシシ398頭、ニホンジカ609頭《R6実績 イノシシ496頭、ニホンジカ454頭》 ・ハクビシン等小動物用の捕獲檻貸し出し数89個《R6実績 145個》 ・コアジサシ飛来数40羽《R6実績 50羽》					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		ニホンジカについては、隣接自治体からの流入量が多く、市町境を越えて侵入してくるため、隣接自治体を含んだ協議会において捕獲圧を高めていく必要がある。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「農作物の鳥獣被害額」について、計画最終年度における目標値を設定した。計画見直しにおいて、ネイチャーポジティブの推進という視点を追加したことから、生物多様性確保の状況を図ることができる指標として、新たに自然共生サイトの登録数及びそれに類する活動を行う区域数を詳細指標として定め、計画最終年度における目標値を設定した。				
状況を示す写真や資料等						
【有害鳥獣の捕獲】  (ハクビシン)						

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策5 自然共生		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
5-2 森里川海の保全・活用(森)						
森里川海がひとつになりになった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。 暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。 森林の有する水源かん養などの公益的機能を発揮するため、間伐や枝打ちなどの森林整備を計画的に実施し、より公益性の高い多種多様な森林の育成を図るとともに、さまざまな生物が生息することのできる広葉樹を主体とした森林の再生を促します。						
詳細指標						
〔森〕 小田原市森林整備面積(ha)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
28ha	28ha	30ha	32ha	39ha	48ha	100%
主な取組 ○重点的な取組	○おだわら森林ビジョンに基づく施策の推進・森林整備 ・小田原産木材の活用(学校木の空間づくり事業) ・地域水源林の整備					
定性的・ 定量的 評価	・県の水源環境保全税を原資に、意向・測量調査、間伐、枝打などの森林整備を行い、森林の持つ公益的機能を向上させた。 ・学校木の空間づくり事業においては、木質化改修8校目にあたる富水小学校内装木質化を実施。 ・児童への「木を使うことの意義」、「森林の手入れの必要性」等の森林環境学習をはじめ、児童、保護者等と協働し、木製品を製作するワークショップを開催した。 ・多くの市民等が利用する市内の民間建築物において、小田原産木材を積極的かつ効果的に活用する取組に対して補助金を交付した。 【定量的評価】 ・富水小学校内装木質化木材使用量:約25.9m ³ ・民間建築物小田原産木材利用促進事業費補助金:3件(R6実績 5件)					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		水源環境保全税の対象外となる市東部地域の森林整備に課題があり、継続的かつ計画的に森林整備を進めていく必要がある。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		小田原市森林整備面積について、計画最終年度における目標値を設定した。				
状況を示す写真や資料等						
【学校木の空間づくり事業】			【民間建築物小田原産木材利用促進事業費補助金】			
						
富水小学校			農泊施設			

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策5 自然共生		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
5ー2 森里川海の保全・活用(里)						
森里川海がひとつならになった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。 暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。						
市民が身近に親しめる自然空間や、さまざまな活動や学習のフィールドとしての里山の再生に向けた地域の取組を支援するほか、耕作放棄地解消の取組を進めることなどにより農地の適切な維持・保全に努めます。						
詳細指標						
〔里〕 耕作放棄地面積及び累計解消面積(ha)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
178ha・5.7ha	176ha・7.7ha	一・6.9ha	一・7.1ha	一・7.9ha	一・8.0ha	100%
主な取組 ○重点的 な取組	・里山づくり推進事業費の補助 ○農業振興地域の管理 ・農道・用排水路整備・維持管理 ・農業の有する多面的機能発揮促進事業への支援 ・耕作放棄地の予防対策 ・農業の生産振興(環境保全型農業の推進)					
	・多面的機能支払交付金を活用し、地域団体の農地維持と資源向上への共同活動へ支援を行った。 ・環境保全型農業直接支払交付金を活用し、農業団体の環境保全型農業への取組に支援を行った。 ※詳細指標について ・耕作放棄地面積は、令和2年度の基準値を算出した調査が令和3年度から行われていないため、比較が難しいが、解消面積は増加している。 【定量的評価】 ・多面的機能支払交付金対象団体 10団体(R6実績 10団体) ・環境保全型農業直接支払交付金対象団体 3団体(R6実績 3団体)					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		農業の担い手不足は深刻で、新たな耕作放棄地の増加もあり、全体の耕作放棄地面積を減少させることはますます難しくなっているため、今後も活動団体への継続支援を実施していく。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		見直し前の指標のうちの一つである「耕作放棄地面積」は、根拠として用いる調査が実施されなかったため削除し、「耕作放棄地累計解消面積」のみを詳細指標とする形へ変更した。また、耕作放棄地解消面積について、市の事業実績のほかに県の事業実績についても実績に含むように変更した上で計画最終年度における目標値を設定した。				
状況を示す写真や資料等						
【耕作放棄地の解消に関する取組】						
						
耕作放棄地 解消前			耕作放棄地 解消後			

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策5 自然共生		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
5－2 森里川海の保全・活用(川)						
森里川海がひとつになりになった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。 暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。 酒匂川水系の豊かな環境を将来の世代に引き継ぐため、市民との協働により、河川環境の保全活動や環境教育を進め、水質の保全や環境維持向上に努めます。また、治水や水質の安全性を保ちつつ、市民の憩いの場として水辺を親しめる多自然水路を整備・保全します。						
詳細指標						
〔川〕 酒匂川水系保全協議会実施イベント参加者数(人)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
88人	330人	91人	203人	242人	302人	88%
主な取組 ○重点的な取組	○酒匂川水系のフィールド体験 ・酒匂川水系の生物相調査 ・河川の水質・動植物調査 ・多自然水路の整備・保全					
定性的・ 定量的 評価	【定性的評価】 ・ワクワク自然体験教室等の各種イベントを通じて、酒匂川水系の環境保全等に意識醸成を図ることができた。					
	【定量的評価】 ・酒匂川水系保全協議会会員数:78《R6実績 78会員》 ・親子でアユの放流体験:4/26開催(198人参加)《R6実績 160人参加》 ・酒匂川フォトコンテスト:38人応募《R6実績 42人応募》 ・ワクワク自然体験教室:8/2開催(48人参加)《R6実績 26人参加》 ・フィールドワーク事業:8/3開催(18人参加)《R6実績 14人参加》 ・寺下排水路 整備延長 L=60.0m ・牛島排水路 整備延長 L=21.2m(R6実績 60.3m)					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
□計画どおり進捗している ■計画どおり進捗していない		親子でアユの放流体験やワクワク自然体験教室等、定員を大幅に上回る人気なイベントについては、募集定員や実施回数等を増やし、参加できる人数の増加を図っていく。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		酒匂川水系保全協議会実施イベント参加者数について、計画最終年度における目標値を設定した。 新たに河川の保全状態をより直接的に示す「主要河川のBODの環境基準適合率」を詳細指標として定め、計画最終年度における目標値を設定した。				

【酒匂川フォトコンテスト】



会長賞作品

【寺下排水路 整備】



【フィールドワーク事業】



小田原アリーナ横排水路及び
河川敷にて水のいきもの観察会

【ワクワク自然体験教室】



丹沢湖(酒匂川水源)にて
SUP(サップ)体験

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策5 自然共生		評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
5－2 森里川海の保全・活用(海)						
森里川海がひとつらなりになった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。 暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。						
限りある水産資源の保護と育成を進めるとともに、安全性・持続性・多様性の観点から小田原漁港・漁場の整備を進めます。						
詳細指標						
〔海〕 小田原漁港の水揚げ量(t)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
2,816t	2,895t	2,486t	3,159t	3,377t	2,944t	100%
主な取組 ○重点的な取組	・小田原漁港の整備促進 ○稚魚・稚貝の放流支援・藻場支援					
定性的・ 定量的 評価	・水産資源の増大及び漁業者の経営の安定化を目的としてサザエ・アワビの稚貝放流を行った。 ・サザエ・アワビの餌となる海藻が磯焼けにより減少していることから、藻場の保全・再生への取組を行う団体に支援を行い、水産資源の着実な保護と育成に寄与した。 ・稚貝放流については、サザエ約14,000個、アワビ約40,300個を放流し、藻場の保全・再生については、一部の定点観察ポイントにおいて、完全に消失していた自然海域でのカジメ(海藻)が被度95%まで回復するなど、顕著な環境改善の成果を得る事ができた。					
	※詳細指標について 令和7年度の実績については、目標値を上回るものとなったが、短期的な漁獲量の増減はその年の海流や水温等が影響していると考えられ、本施策における取組の効果発現までには、長期の視点で継続的な実施が必要である。					
	【定量的評価】 ・稚貝放流数：約54,300個(サザエ約14,000個、アワビ約40,300個) 《R6実績 約54,300個(サザエ約14,000個、アワビ約40,300個)》					
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針				
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		計画どおりの事業実施が必ずしも成果として数値化されない点は課題ではあるが、着実な事業実施が水産資源の保護と育成に確実につながるものであり、継続的に取組んでいく。				
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「小田原漁港の水揚げ量」は、海水温の上昇や海流の変化など、取組内容以外の影響を受けていると考えられた。このため、稚貝の放流や藻場再生などの取組の進捗状況を図ることができる「江之浦漁港のアワビの水揚げ量」を新たに追加の詳細指標として定め、計画最終年度における目標値を設定した。				



サザエの稚貝放流の様子



アワビの稚貝は一つずつ岩に張り付ける



藻場礁の保護網からはみ出して
成長したカジメ



藻場礁周辺にカジメが自生し、小魚が集まる様子

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策6 生活環境保全	評価対象年度	令和7年度(2025年度)
------------	--------	---------------

6-1 快適な街の維持保全

まちなかにおける民有地や公共空間の緑化などを推進するとともに、街路樹の再整備や改善によるみどりの創出や質の向上を図ることで、持続可能な緑化を推進します。また、安心して利用できる魅力ある公園の整備や管理を、市民や企業などと協働で取り組むとともに、公園の多面的な機能をより高め、発揮するために、地域の実情に応じた取組を推進します。優れた景観への誘導を促進し、歴史的建造物を核とした街なみを形成することを目的に、回遊性の向上、良好な居住環境創出のため、景観計画重点区域の拡充や、市民による自主的な景観形成の支援などに取り組めます。また、地域が主体となって地域の資産を活用したまちづくりを推進する体制の確立を支援します。

詳細指標

再整備した街区公園数(公園)《累計》

基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
-	2公園	0公園	1公園 《1公園》	1公園 《2公園》	0公園	100%

主な取組 ○重点的な取組	・民有地や公共空間の緑化支援 ○街区公園・街路樹の再整備 ・公園等の適切な維持管理 ・保存樹・保存樹林奨励金の交付や標識設置 ・景観計画重点区域の拡充 ・景観形成修景費の補助
	・小田原駅周辺の道路照明灯等に花飾りを設置し、公共花壇へ花の植付けを行うとともに、緑化団体等へ花苗を配布し、公民館等の地域拠点を緑化した。(グリーンライフサークル等) ・身近な公園プロデュースでは地域住民との協働による公園管理を行った。 ・街区公園再整備については、令和7年度においては再整備を実施していないが、令和6年度に地域住民、公園利用者等の意見を踏まえた再整備を行った山根公園について効果検証として再整備後の利用調査として聞き取りを行った。 ・街路樹再整備については、樹木診断調査を基に西海子小路、市道0006(城山陸上競技場付近)、市道0077(沼代桜の馬場)のサクラの再整備を実施した 【定量的評価】 ・グリーンライフサークル 花苗配布件数: 春43団体、秋45団体(年2回 計14,218株配布)《R6実績 春43団体、秋42団体、計14,648株》 ・身近な公園プロデュース登録公園数: 75公園《R6実績 77公園》 ・保存樹・保存樹林奨励金交付件数: 保存樹42件、保存樹林18件 《R6実績 保存樹43件、保存樹林18件》 ・景観形成修景費補助件数 2件(目標値: 2件/年)《R6実績 2件》

事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	グリーンライフサークル、身近な公園プロデュース活動等の担い手を継続的に確保していく必要がある。 街区公園再整備を行う場合は、公園ごとに劣化状況やニーズが異なるため、これを把握し、誰もが使いやすい公園になるよう検討していく。

計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について	見直し前の指標については、令和6年度をもって目標達成し完了している。 今後の取組を図るため、新たに「まちなか緑化助成事業で緑化された延長」を詳細指標に定め、計画最終年度における目標値を設定した。
------------------------	--

状況を示す写真や資料等

【グリーンライフサークル】



公民館前の花壇に植えつけられた花苗

【景観形成修景費補助事業】



かまぼこ店資材庫外観修景工事

・1階部分にオープンスペースを確保し、ベンチ及び植栽を設置。その他、外壁の塗り替えや木縦格子を設置した。

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策6 生活環境保全		評価対象年度		令和7年度(2025年度)				
6ー2 美化の推進と衛生環境の保持								
市民の環境美化意識をさらに高め、ごみの投棄や落書きなどのないきれいなまちづくりを進めるとともに、害虫駆除やし尿処理などの公衆衛生環境の保持に努めます。また、犬・猫飼い方マナー啓発看板の貸与や犬のしつけ教室を実施し、糞尿被害の減少に取り組むとともに市民のニーズに適切に対応した斎場を運営します。								
詳細指標								
美化清掃実施回数(回)								
基準値 (令和2年度) (2020年度)		<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)		実績値		進捗割合		
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)			
276回		500回		563回	586回	625回	659回	100%
主な取組 ○重点的な取組		・ボランティア清掃をする方へのごみ袋の配布 ○環境美化推進員の育成 ・環境美化促進重点地区の喫煙所の管理 ・害虫駆除やし尿などの収集 ・犬・猫飼い方マナーの周知や野良猫の去勢・不妊手術費補助金の交付 ・斎場の管理運営 ・扇町クリーンセンターの管理運営・長寿命化						
定性的・定量的評価		【定性的評価】 ・これまで環境美化推進員研修会を毎年1月に実施していたが、開催時期の見直しを行い、年度の早い時期に実施したことにより、環境美化推進員の美化活動に対する意欲や知識の向上を図った。 ・近年のユスリカの発生状況を踏まえて、駆除する場所や回数などの見直しを行い、効果的に業務を遂行した。 ・扇町クリーンセンターでドッグランを開催したほか、看板の貸出等による啓発を実施した。また、新たに動物愛護週間に合わせて本庁舎2階市民ロビーで動物愛護に関するパネル展示を行い、犬・猫の適正飼養及び飼い方マナーの普及啓発に努めた。 【定量的評価】 ・ボランティア清掃用ごみ袋(配布枚数:可燃39,210枚、不燃7,317枚)《R6実績 可燃32,973枚、不燃6,523枚》 ・環境美化推進員研修会(令和7年6月18日、市役所大会議室、参加者123名)《R6実績 参加者102名》 ・スズメバチの巣駆除(件数:277件)《R6実績 173件》 ・犬・猫飼い方マナー啓発看板の配布:165枚《R6実績 184枚》 ・野良猫の去勢・不妊手術費補助金の交付:オス4件、メス2件《R6実績 オス1件、メス6件》 ・扇町クリーンセンタードッグラン来場頭数等:延べ2,773頭(52日間開催)《R6実績 延べ775頭(8日間開催)》						
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針						
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		環境美化推進員研修会については、年度の早い時期(6月18日)に変更したが、さらに時期を早めて実施できるように調整を図るとともに講義テーマについても内容の見直しが必要。 スズメバチの巣駆除業務において、駆除作業を職員が実施している自治体は県内で本市のみであり、職員の安全性等も踏まえて、今後、実施方法の見直しが必要。						
計画見直し後の詳細指標の変更・追加等について		「美化清掃実施回数」について、計画最終年度における目標値を設定した。 見直し前の基準値(令和2年度:276回)が誤りであったため、正しい数値に修正する。						

【美化清掃回数】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
自治会清掃	169回	171回	216回	266回	291回	300回
ボランティア清掃	407回	400回	347回	320回	334回	359回
計	576回	571回	563回	586回	625回	659回

【環境美化推進員研修会の内容(講義)】

- ①環境美化推進員の役割等
- ②ごみの減量や資源化の取組
- ③ごみ集積場の管理等



▲令和7年度環境美化推進員研修会の様子

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-1 取組の柱

施策6 生活環境保全	評価対象年度	令和7年度(2025年度)
------------	--------	---------------

6-3 公害対策

人間が豊かな自然環境を享受するため水質など環境保全に関する調査や監視を行います。

詳細指標						
主要河川のBODの環境基準適合率(%)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

詳細指標						
生活環境に対する苦情件数(件)						
基準値 (令和2年度) (2020年度)	<参考>目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値				進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	
59件	減少	66件	59件	48件	49件	100%

主な取組 ○重点的 な取組	○河川・地下水等の水質調査 ・自動車騒音調査等の環境調査 ・環境や水質保全のための事業者への立入調査 ・苦情発生抑制の注意喚起
	・河川の水質調査などを実施し、環境保全に関する調査や監視を行い、その調査結果の報告として、「小田原かんきょう白書」を作成公表した。 ・事業者へ立入調査のほか、比較的苦情の多い解体工事や野焼きについて、注意喚起の啓発を行うことで、苦情発生抑制を図った。
定性的・ 定量的 評価	【定量的評価】 ・水質常時監視調査※BOD(生物化学的酸素要求量) 河川8地点において、全地点で水質汚濁の指標であるBODが環境基準を達成 地下水8地点において、全地点で環境基準に適合 ・自動車騒音常時監視調査 11地点において、環境基準達成率が100%であった。 ・事業者への立入調査:延べ46回実施 ・工事に伴う騒音苦情:12件(R6実績:9件) 野焼きに伴う大気苦情:14件(R6実績:10件)

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	今後も環境調査を継続して実施するほか、生活排水対策として、単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換を促進させる。
計画見直し後の詳細指標の 変更・追加等について	「主要河川のBODの環境基準適合率」について、計画最終年度における目標値を設定した。 「生活環境に対する苦情件数」について、計画最終年度における目標値を設定した。

状況を示す写真や資料等

【小田原かんきょう白書】



【野焼きへの注意喚起 ちらし】



【年度別公害苦情件数】

年度	大気	水質	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	その他	合計
R2	28	1	21	5	8	0	0	59
R3	30	8	24	2	7	0	1	70
R4	29	3	25	1	8	0	0	66
R5	21	5	26	0	7	0	0	59
R6	13	2	22	2	7	0	2	48
R7	18	0	25	2	8	0	0	49

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-2

評価対象年度		令和7年度(2025年度)
各事業に関する報道		
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
稚貝と稚魚放流について	2025/6/21	毎日新聞
子ども環境教室について	2025/7/9	神静民報
食品ロス削減レシピコンテストについて	2025/8/5	神静民報
小田原フォレストベース及び辻村農園・山林の自然共生サイト認定について	2025/10/4	神静民報
小型充電式電池の分別収集開始について	2026/3/25	神静民報
定性的・定量的評価	取組の柱「2-1 環境学習・環境活動の推進」、取組の柱「4-1 ごみの減量化・資源化の推進」、取組の柱「5-1 生態系の維持保全」、取組の柱「5-2 森里川海の保全・活用(海)」に関連する事項について適宜報道された。 市の取組内容、市内活動団体等の環境へ関する取組内容等について、行政側から積極的な情報提供を行うことで、市の取組状況等について報道され、これによって関心を高めることができた。	

□ 取組の柱に関する令和7年度実績(進捗評価)

様式1-3 その他

評価対象年度 令和7年度(2025度)

7-1 庁内連携による環境基本計画の推進

計画に記載している内容

新たな課題の解決に能動的に対応するため、行政の各部署が一丸となって第3次環境基本計画の推進に取り組む必要があります。

定性的・定量的評価

・グリーン購入の取組に係る庁内への普及啓発
・国の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」が改定され、特定調達品目及びその判断基準が見直されたことに伴い、「小田原市グリーン購入推進ガイドライン」の改定を行い、改めて庁内に周知を図った。また、グリーン購入法適合商品やエコマーク商品を掲載した、グリーン購入のための環境商品冊子カタログを庁内に配布した。
・各部署で取り組んでいる市民が参加できる講座やイベントなどの事業で環境学習等に資するものを幅広く情報収集し、今後の施策展開や市民への一体的な事業周知に活用することを目的に庁内向けに取組状況調査を行った。
・ネイチャーポジティブの実現に向けて、経済部(農政課、水産海浜課)及び建設部(みどり公園課)の関係部署との打ち合わせの場を設け、ネイチャーポジティブの必要性や今後の取組の方向性について共有を図った。

進捗状況

実施・検討にあたっての課題と対応方針

■計画の進捗に影響なし
□計画の進捗に影響あり

グリーン購入推進に係る意識が一部の部署では浸透していない状況であるため、引き続き庁内に周知を図っていくとともに取組状況が乏しい部署とは個別にヒアリング等を実施するなどして取組を推進していく。
計画に記載された取組内容の進捗状況等について、各所管と意見交換する場を設けるなどして、計画のフォローアップを強化し、より着実に計画の取組が推進されるようにしていく。

状況を示す写真や資料等

【改定したグリーン購入推進ガイドライン】



用途	グリーン購入対象品目	取組基準
事務用品	コピー用紙、PVC用紙、PVCカラー用紙、KB用紙(18号)等	★1-5のいずれかを満たすもの 1 グリーン購入法適合品 ※各品目ごとに取組基準が異なる。
事務用品	フォーム用紙、MP用紙等	2 エコマーク商品
事務用品	インクジェットカラープリンター用墨、インクジェットカラープリンター用インク	3 「エコマーク」商品 GPN掲載
印刷用品	墨工されていない印刷用紙、上質紙、半紙、プロッター用紙、マルチカラー用紙	※グリーン購入ネットワークが提供する「エコ商品カタログ」掲載商品
印刷用品	墨工されている印刷用紙、アート紙、コート紙、重量コート紙、マルチカラー用紙	4 環境配慮型インク等の商品
衛生用品	トイレ用トイレットペーパー	5 その他 ・トイレ用トイレットペーパー及びティッシュペーパーは、環境配慮型(100%の再生紙)のもの ・本ガイドラインは、環境配慮型(100%の再生紙)のもの

【グリーン購入対象品目の取組基準】
・環境配慮型(グリーン購入法適合品)
・環境配慮型(グリーン購入法適合品)
・環境配慮型(グリーン購入法適合品)
・環境配慮型(グリーン購入法適合品)
・環境配慮型(グリーン購入法適合品)
・環境配慮型(グリーン購入法適合品)

評価対象年度		令和7年度(2025年度)		
環境審議会における意見				
会議日程等	令和8年8月5日(水)開催 令和8年度第1回小田原市環境審議会にて			
主な意見				

【参考資料】計画最終年度に実施する最終評価に用いる成果指標の令和7年度実績について掲載しています。

様式2-1 成果指標

評価対象年度						
令和7年度(2025年度)						
<共通> 施策1		地域循環共生圏の構築				
目標		地域循環共生圏の構築を目指し、課題の価値化や人と資金の循環創出を進めます。				
成果指標		小田原の森里川海に触れる体験をした都市住民の割合(%)				
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	実績 令和7年度 (2025年度)	達成割合
8.9%	17%	— ※未算定	— ※未算定	— ※未算定	— ※未算定	— ※未算定
小田原の環境資源について、東京・横浜・川崎の18～69歳の男女を対象にアンケート調査を行い、そのうち自然体験をした方の割合を算出						
<共通> 施策2		多様な主体の育成・活躍の推進				
目標		豊かな環境を継承するため、多様な主体(市民、企業、市民団体のほか、市外の住民、企業、市民団体など)による参加と協働、人づくりを進めます。				
成果指標		環境に関するイベントに参加している人の割合(%)				
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	実績 令和7年度 (2025年度)	達成割合
12.6%	16.8%	— ※未算定	13.6%	13.3%	— ※未算定	— ※未算定
市民意識調査(まちづくりに関する市民アンケート)より						
<分野別> 施策3		脱炭素				
目標		脱炭素社会の実現に向けて、地域社会と暮らしの転換を図ります。				
成果指標		二酸化炭素排出量の削減率(%)				
基準値 (平成30年度) (2018年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和2年度 (2020年度)	実績 令和3年度 (2021年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	達成割合
17.5%	28.3%	21.9%	24.2%	26.7%	34.8%	100%
環境省公表データによる(平成25(2013)年度比) ※数値は2年遅れて算出						

<分野別> 施策4		資源循環				
目標	5Rを推進するとともに、限りある資源を長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限にする経済活動など、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を進め、省資源・循環型社会の構築を目指します。					
成果指標	ごみの総排出量(t)					
基準値 (平成30年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	実績 令和7年度 (2025年度)	達成割合
66,861t	65,197t	64,273t	62,516t	60,931t	59,537t	100%
市事業実績により、家庭ごみ・事業ごみ全体の排出量（資源物含む）を把握 （なお、第4次小田原市一般廃棄物処理基本計画の指標と整合を図り、令和11（2029）年度の目標数値を採用している。）						
<分野別> 施策5		自然共生				
目標	自然と共生する暮らしを次世代に引き継ぐため、森里川海がひとつらなりになった自然環境を保全・活用します。					
成果指標	自然環境調査において確認できた生物の種数割合（％）					
基準値 (平成30年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	実績 令和7年度 (2025年度)	達成割合
100%	100%	— ※未算定	100%	— ※未算定	100%	100%
平成29（2017）年から令和元（2019）年まで実施した自然環境調査における「小田原の森里川海街で広く確認され各環境を指標する種（80種）」のうち、モニタリング調査における当該調査地点において確認された種数割合を算出する。						
<分野別> 施策6		生活環境保全				
目標	一人ひとりが安心して快適に暮らせるまちを目指し、良好な生活環境を守ります。					
成果指標	小田原が住みやすいと思う人の割合（％）					
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	実績 令和7年度 (2025年度)	達成割合
95.8%	95.8%	95.8%	94.4%	94.6%	— ※未算定	— ※未算定
市民意識調査（まちづくりに関する市民アンケート）より						

【参考資料】 市の総合計画に記載された事業の事務事業評価一覧を掲載しています。

【事務事業評価一覧】

第 2 回環境審議会開催時に
掲載予定